

## 全国学力・学習状況調査結果 —第1部 学力について—

### (1) 全国学力・学習状況調査 (全国学調) とは

全国学調とは、平成19年度から文部科学省によって実施されている全国的な学力調査で、これまでに、平成23年度の東日本大震災による中止を除き、8回実施されています。対象は小学校6年生と中学校3年生で、毎年4月中旬に実施されます。これまで、国語と数学のそれぞれで、知識・技能の定着を見る「A問題」、知識・技能の活用を見る「B問題」に分けて実施されてきましたが、今回は理科が追加され、計3教科5種類で実施されました。(注)

したがって、特定教科における筆記による調査であることから、あくまでも学力の一部を把握できるものであることを、まずご理解ください。

この調査の特徴は、学力とともに、子どもたちの学習状況についても調査される点にあります。そこで、本校3年生の調査結果について、学力と学習状況の両面から概要をお伝えいたします。

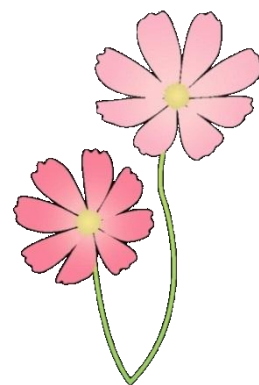
注：理科は、平成24年度にも実施されました。

### (2) 本校生徒の学力について

#### ○概要

国語A・B、数学A・B、理科の5教科において、平均正答率はすべて全国平均を上回るという結果でした。このことから本校生徒においては、知識・技能の定着及び知識・技能の活用について、一定の満足できる学力がついていると分析しています。

また、無解答率が全教科において全国平均に比べて低く、中には2ポイント以上も低い教科があるなど、調査に真剣に取り組む生徒の姿勢がうかがえます。



#### ○各教科

##### 国語A . . . 知識・技能の定着を見る問題

この問題で評価される①「話す・聞く能力」・②「書く能力」・③「読む能力」・④「言語についての知識・理解・技能」について、③「読む能力」についてはやや課題があるものの、他の能力についてはある程度の満足できる能力がついています。中でも、①「話す・聞く能力」は、十分満足できる能力が身についています。

このことから、国語における知識・技能は定着しているといえます。 (裏面へ)

### 国語B . . . 知識・技能の活用力を見る問題

この問題で評価される①「国語への関心・意欲・態度」・②「書く能力」・③「読む能力」④「言語についての知識・理解・技能」について、いずれもある程度満足できる能力がついています。中でも、①「国語への関心・意欲・態度」・②「書く能力」は、十分満足できる能力が身についています。

このことから、国語における知識・技能の活用については、一定以上の活用力を身に付けているといえます。

### 数学A . . . 知識・技能の定着を見る問題

この問題で評価される①「数学的な技能」・②「数量や図形などについての知識・理解」について、いずれもある程度満足できる能力がついています。中でも、①「数学的な技能」は、十分満足できる能力が身についています。

このことから、数学における知識・技能は定着しているといえます

### 数学B . . . 知識・技能の活用力を見る問題

この問題で評価される①「数量や図形などについての知識・理解」・②「数学的な見方や考え方」については、ある程度満足できる能力がついています。中でも、①「数量や図形などについての知識・理解」は、十分満足できる能力が身についています。

このことから、数学における知識・技能の活用については、一定以上の活用力が身に付いているといえます。

### 理科

この問題で評価される①「科学的な思考・表現」・②「観察・実験の技能」については、ある程度満足できる能力がついていますが、③「自然事象についての知識・理解」については、やや課題がみられます。具体的には、塩化ナトリウムを化学式で表す問題や背骨のある動物の名称を答える問題をやや苦手としていました。

また、問題の枠組み別にみると、主として「知識」に関する問題の正答率は全国平均を下回っているのに対し、主として「活用」に関する問題は全国平均を上回っています。

このようなことから、理科における知識については一部に課題があるものの、全体的には一定の学力が身に付いているといえます。

※ 全国学力・学習状況調査結果の分析については、今後、「第2部 学習状況について」と「第3部 今後の改善について」を記載します。

※「和学鍛」はホームページにも掲載いたします。